

としていた科目もあり、本当に感謝感謝の毎日です。つくづく皆の医学を学ぶ姿勢や他人を気遣える心の広さに感銘をうけると同時に、共に信頼・協力しながら医学を学べる友がいることは何事にも代えがたい喜びであると感じます。私たち学士編入生五人は、社会人や留学を経て、その経験を医学部のコミュニティに還元し、リーダーシップや多様性をもたらすことを求められて入学しました。私自身いまだ空気のような存在で、あまり貢献できていませんが、少しでもクラス全体がいい方向に向かっていけるよう何かできることはないかと常時模索中です。

卒業まであと4年半と先は長いですが、しかし、基礎一辺倒の講義から臨床へのつながりも見え始め、一步一步前に進んでいる実感はあります。2

年次の学生の皆さん、暗記ばかりの毎日で大変ですが、一つ一つの積み重ねの先に卒業があると思って、全員が留年せずに進級できるよう力を合わせて残りの半年を乗り切りましょう！ありがとうございました。



1年次の近況報告

前原 大 毅 (1年次)

皆さん、こんにちは。今回、一年次の近況報告を担当させていただくことになった一年次の前原です。時が経つのも早く、一年生も後半にさしかかりました。前期の終わりに初めての専門科目である生命科学の試験を終え、待ちに待った夏季休業がやってきました。私は医学部バスケット部に所属しており、一年生ながら西医体に参加させていただきました。そこでは、普段は味わうことのできない経験をさせていただき、とても有意義な時間を過ごし、よい夏季休業のスタートとなりました。大学生の夏休みはとても長く、地元への帰省をはじめ、熱医研のカンボジア研修、国内外への旅行、琉大祭など十人十色な日々を過ごしていました。

そんな夏季休業も終わり、後期からは組織学や生理学など、専門科目が増えてきました。毎回の授業を受けるたびに、医学生になったという自覚がでてきて、みな前期に比べやる気の満ち 溢れており、毎日どこかで勉強会が行われている状況です。さっそく10月の下旬から組織学の試験があり、それに続き生理学、解剖学と試験が続いていきます。慣れない医学の勉強に苦しみ、試行錯誤しながら暗記と毎日戦っていますが、それとともに日々知識が増え、成長していく姿を自分自身で感じることができ、医師への道を少しずつではありますが着実に進んでいると日々感じています。これからさらに勉強は大変になっていくとは思いますが、目の前にある壁を着実に乗り越え、一年生全員で無事進級していけるよう切磋琢磨し、頑張っていきたいと思います。

